

総合工学委員会原子力安全に関する分科会
(第26期・第5回)

議 事 要 旨

1. 日時 令和7年8月19日(月) 10:00~12:00

2. 会場 日本学術会議会議室及び遠隔会議 (Zoom)

3. 出席者 (敬称略)

越塚誠一、高木周、森口祐一、浅間一、一ノ瀬正樹、岩城智香子、大倉典子、
小野恭子、関村直人、筑本知子、中西友子、野口和彦、松尾亜紀子

4. 議事

(1) 前回議事要旨の確認及び前回分科会以降の主な動向について

岩城幹事より資料 1-1 の第4回分科会議事要旨について説明があり、承認された。

森口委員より資料 1-2 の前回分科会以降の主な動向について説明があった。越塚副
委員長、他より、学術会議法人化について動向と今後のスケジュールが共有された。

(2) 記録「福島第一原発事故に関わるモニタリングデータ・測定資料に関するアン
ケート調査」の結果について」の発出について

森口委員より資料2「記録」の作成経緯等の説明があった。

・第25期の「福島第一原発事故に関わるモニタリングデータ・測定資料に関するア
ンケート調査」について、とりまとめを26期にまたがって実施したことから関係者
の広がりや踏まえて名簿を更新した。内容については確定していることが報告され
た。

・本日付で正式に「記録」として発出することが確認され、承認された。

(3) 見解「ALPS処理水の海洋放出の影響評価と課題」(案)について

森口委員より資料3-1、3-2、3-3、3-4、3-5、3-6について説明があった。

・資料3-4に示すように、科学的助言等対応委員会より前向きなフィードバックが
あったことが共有された。

・「見解」をこのタイミングで公表する理由、および、内容について確認した。

・ページ数について上限を超過しているため、内容を増やさない方向が望ましいと
いう指摘があった。

・「安全」について「科学的」と強調しすぎない方向でいかがか、という指摘があっ

た。

・分科会委員は、「資料 3-1 見解「ALPS 処理水の海洋放出の影響評価と課題」（案）0816 更新版」に意見を書き込み、8 月末を目途に森口委員・越塚副委員長・関村委員長あてに送付する。

(4) 講演「原子力産業界における技術及び人材の現状と展望」

佐藤 拓氏（原子力エネルギー協議会（ATENA）理事）

佐藤氏より、資料 4「原子力産業界における技術及び人材の現状と展望」に基づいて講演していただいた。

・人材育成および他分野の技術者との交流についての質問・意見が出るなど、活発な質疑応答がなされた。

(5) 原子力総合シンポジウム 2025 開催計画について

越塚副委員長より、資料 5 の原子力総合シンポジウム 2025 開催案について説明があった。

・プログラムについては調整中であるが、詳細は関村委員長、越塚副委員長に一任することが承認された。

(6) その他

特になし

5. 配布資料

資料 1-1：原子力安全に関する分科会（第 26 期・第 4 回）議事要旨

資料 1-2：前回分科会以降の主な動向

資料 2：記録「「福島第一原発事故に関わるモニタリングデータ・測定資料に関するアンケート調査」の結果について」分科会コメント反映改訂最終版

資料 3-1：見解「ALPS 処理水の海洋放出の影響評価と課題」（案）

資料 3-2：意思の表出の申出書（見解）提出版

資料 3-3：意思の表出の申出書の作成、審議経過

資料 3-4：意思の表出の申出書に対する科学的助言等対応委員会助言書

資料 3-5：意思の表出の申出書に対する科学的助言等対応委員会調査結果

資料 3-6：環境影響小委員会（第 26 期・第 5 回）議事要旨

資料 4：佐藤拓氏講演資料「原子力産業界における技術及び人材の現状と展望」

資料 5：原子力総合シンポジウム 2025 開催案

以上